

令和5年度 江戸川区立瑞江第二中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	自立・貢献・生き抜く力	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	安心して登校し、安全に生活し、満足して下校できる学校 ①確かな学力を身につけ進路を切り開く生徒 ②豊かなこころ・人間性を磨く生徒 ③健康な体づくりに積極的に取り組む生徒 ①自己のライフ・ワークプランの実現 ②人間味あふれる教育の実践 ③サービスの厳正 ④向上心と授業改善
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>落ち着いた学習環境を創りあげ、全教科等で協同的な学習を取り入れ、生徒同士の学び合いを実現することができた。また、特別活動だけでなく各教科でプレゼンテーションの授業を行った。SDGsの視点で環境問題や教育格差、ジェンダー平等などについて調べ、課題解決の方策を考え、発表することができた。教科等を横断した生徒に身に付けさせたい力を明らかにして教育活動を進めることができた。 <課題>新型コロナウイルス感染症で中止・縮小を余儀なくされてきた教育活動を復活させるに当たり、単純に元に戻すのではなく、働き方改革とscrap&buildの視点で改めて各教育活動を見直し、ポストコロナ時代の教育課程のあり方を学校全体で考え、新しい教育課程を構築すること。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力調査や定期考査の結果を分析し、生徒の課題に正対した学力向上プランを作成・実施する。実施状況について管理職が日常的に授業観察を行い指導・助言を行う。</li> <li>○ICT機器活用の教員研修を行うとともに、ICT支援員と連携し効果的な活用について研究する。</li> <li>○外部講師による数学の補修教室を実施し、学力低位層の学習意欲の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力調査における平均正答率を3ポイント以上向上する。定期考査における達成率20%未満の生徒を3%以上低減する。</li> <li>○生徒アンケートにおける「ICT機器の活用」に関する設問に対する肯定的回答を75%以上とする。</li> <li>○生徒アンケートにおける「授業への取組」に関する設問に対する肯定的回答を75%以上とする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和5年度全国学力・学習状況調査では、調査した全ての教科でその平均を上回った。習熟程度の低い学習集団に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるための「立ち戻る指導」を一層充実するとともに、今年度から英語と数学の2教科になった外部講師による補修教室の一層の活用促進を図ることが課題である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業中の教室の雰囲気がとても良いと感じた。</li> <li>○授業観察で生徒たちがiPadを使っていることが確認できた。</li> <li>○昔とは教材が違う、教え方が違う、中1から表計算ソフトの勉強ができるなど将来役に立つ。</li> <li>○英語の先生も発音が昔とは違い良いと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟の程度が低い学習集団に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる指導を一層充実するとともに、外部講師による数学・数学の補修教室の活用促進を図る。</li> <li>○ICT機器を活用した導入や発問の工夫等により、生徒が学校での学びと実生活との結びつきを実感できるような指導を充実する。</li> </ul>
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝読書を毎日行うことを原則とする</li> <li>○自分の紹介した1本についてビブリオバトルの実施</li> <li>○学校図書館の蔵書の充実と積極的な活用による調べ学習の実施</li> <li>○全学年で、読書科と総合的な学習の時間を関連付けながらSDGsに関するテーマで探究的な学習を行い、プレゼンテーションソフトにまとめ発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケートにおける「学校図書館利用」に関する設問に対する肯定的回答を75%以上とする。</li> <li>○生徒アンケートにおける「探究的な学習の成果物であるプレゼンテーション」に関する設問に対する肯定的回答を75%以上とする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の朝読書とSDGsに関するテーマで行う探究的な学習とを一層密着に関連付けることが課題である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書科での取組と本校の特色である「プレゼンテーション」とを関連付けながら探究的な学習を充実させていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本から得た知識等を深めたり、課題に感じたことの解決策を考えたり、考えたことを発表したりする活動を総合的な学習の時間のもとより、各教科等の指導の中でも一層充実する。</li> </ul>
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動を「東京2020大会レガシー」として位置付け、日常的な運動の実施による体力と運動意欲の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケートにおける「体力・運動意欲向上」に関する設問に対する肯定的回答を75%以上とする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動を「東京2020大会レガシー」として位置付け、日常的な運動することで、運動の苦手な生徒にもチャレンジ精神やフェアプレー精神を育成することが課題である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動の苦手な生徒でもその生徒なりに達成感が味わえるような運動を継続的に取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリンピック・パラリンピック東京大会から2年経ったが、オリンピック・パラリンピック教育を一過性のものせず、体育授業における補強運動を継続するとともに多様性を認める教育を全教育活動を通じて行うなど、大会後も「レガシー」としてオリンピック・パラリンピック教育を推進する。</li> </ul>
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ジェンダーフリー制服・水着、男女混合名簿の導入</li> <li>○不要な男女の区別の廃止</li> <li>○学校行事等において交流及び共同学習を積極的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に関する設問に対する肯定的回答を80%以上とする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師による講演などをきっかけに、ジェンダーフリーに関する教職員・生徒の意識は確実に高まっている。今後も少数者が生きづらさを感じない学校づくりに向けて教員研修及び生徒指導を継続していくことが課題である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女共用水着を導入するなどジェンダーフリーの取組は評価できる。生徒が安心して通える学校だと思える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少数者が生きづらさを感じない学校づくりに向けてLGBTQの当事者を講師に招いての講演会の実施や教員研修、生徒指導を継続する。</li> </ul>
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyspaer-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間2回のQ-Uテストの実施と結果の分析を指導に生かすための分析会の実施及び具体的な指導の充実</li> <li>○「友だちづくり」を主たる目的とした第1学年における宿泊学習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」に関する設問に対する肯定的回答を80%以上とする。</li> <li>○不登校生徒の出現率が前年度より低減する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Q-Uテストの結果を分析し、学年のみならず全校で共有して指導に当たることができた。また、相談連関、SCによる全員面接、ヤングケアラー支援に向けた全員面接の実施などにより、生徒理解を深めることができた。さらに、「友だちづくり」を主たる目的とした第1学年における宿泊学習の実施により1年生の不登校生徒の発生を低減した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生の不登校生徒数が他学年に比べて少ないのは、今年度から始めた「宿泊学習」の効果ではないかと思う。今後も継続していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2回目のQ-Uテストを効果的に活用し、分析結果を全教員で共有して指導に当たることによって個に応じた指導を一層充実する。</li> </ul>
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1日に1回以上学校ホームページの「学校日記」を更新し生徒の活躍を保護者・地域に発信する。</li> <li>○学校公開、みずほまつりの運営、学校応援ボランティアとの連携等を通して保護者や地域に開かれた学校をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校ホームページの1日の平均閲覧数を前年度より増加する。</li> <li>○学校公開の来校者数を前年度より1割以上増加する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校ホームページを毎日更新し生徒の様子を発信するとともに、重要なお知らせは紙媒体だけでなく、トップページにも掲載し広く周知をした。今後は今年度から導入された「テレル」の連絡配信機能の活用促進を図ることが課題である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度「地域交流会」をPTAと連携して実施したことは評価できる。今後も地域に根差した学校として開かれた学校づくりを進めていただきたい。</li> <li>○学校応援団による花壇ボランティア、令和6年度はぜひ復活していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いている「みずほ祭り」などの地域と連携した教育活動を再開する。</li> <li>○地域行事の様子をHP等で発信し地域に根差した学校をアピールしていく。</li> <li>○学校応援団と連携した取組について再開を検討する。</li> </ul>
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校関係者評価等の結果を踏まえた教育課程の編成と実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校関係者評価等における肯定的評価の割合を向上する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評議員会では毎回授業観察をしていただき、生徒の学習の様子を実際に見ていただくことで、指導の成果を実感していただくことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評議員会の際、授業を見させていただいたが、どの教室の雰囲気も温かみのあるものであった。先生方の日頃の指導の成果であると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次回の学校評議員会に向け、学校の様子を積極的に発信し、地域に開かれた学校づくりを引き続き推進する。</li> </ul>
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SSSの増員と活用</li> <li>○副校長補佐の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の在任時間を3%以上削減する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○業務削減や外部人材の活用などの外的要因だけで「働き方改革」を進めるのではなく、一人一人が自らの業務の進め方について見直しを図ることが課題である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の在任時間については、繁忙期は長くならざるを得ないという事情は理解できる。外部人材の活用や効率的な業務の進め方について御検討いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供たちの教育の質の低下につながるのではないよう配慮しつつ、前例踏襲の意識から脱却し、スクラップ&amp;ビルドの意識で積極的に業務内容の見直しを図る。</li> </ul>
	生徒のプレゼンテーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員及び生徒対象の研修会・講演会を実施する。</li> <li>○総合的な学習の時間及び各教科で発表の機会をつくるとともに、開発した「プレゼンテーション能力の評価表」をブラッシュアップするとともに生徒のプレゼンテーション能力をより客観的に捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケートにおける「プレゼンテーション能力」に関する設問に対する肯定的回答を80%以上とする。</li> <li>○「プレゼンテーション能力の評価表」における生徒の達成度を平均10段階以上とする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別活動や総合的な学習の時間だけでなく、各教科等の授業において「プレゼンテーション能力」の育成を念頭に置いた指導を年間を通じて継続的に行うことができた。今後は「プレゼンテーション能力」の向上と「学力向上」との相関を明らかにしていくことが課題である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「プレゼンの瑞二」という声を方々から聞く、それを期待して瑞江二中に学区域外から入学してくる生徒も少なくないと感じている。現在の取組を更に充実することを強く期待している。</li> <li>○プレゼンテーション指導の取組が学力向上や都立推薦入試の結果にも影響していることに驚いた。今後も継続していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「プレゼンテーション能力」の育成を推進するために、今後も全ての教科等で問題を解く過程や、考えたことを表現する活動を重視した指導を継続していく。</li> <li>○プレゼンテーションソフトを活用したプレゼンテーションだけでなく、作品を提示しながらのプレゼンテーション等についても研究を深める。</li> </ul>